

第1回 国道10号・220号の植栽と景観に関する検討会

日時：平成24年6月8日(金) 13:30～15:30

場所：宮崎河川国道事務所 1階会議室

会 議 次 第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 検討会規約について
- 5 議 事
 - (1) ワシントンニアパームの現状
 - (2) 今後の進め方
 - (3) その他
- 6 閉 会

「国道10号・220号の植栽と景観に関する検討会」規約（案）

（名称）

第1条 本会は「国道10号・220号の植栽と景観に関する検討会」（以下「検討会」という）と称する。

（目的）

第2条 検討会は、次の各号に掲げる事項を審議及び検討する。

- 一 国道10号・220号（宮崎市江平東1丁目～同市大字熊野）における中央分離帯にあるワシントンアパームの整備のあり方
- 二 その他検討会において必要と認められた事項に関する事。

（組織構成）

第3条 検討会は、学識経験者等をもって構成し、委員は別紙「委員名簿」のとおりとする。

- 2 検討会に委員長を置き、委員長は会務を総括し検討会を代表する。
- 3 委員の追加及び変更は、検討会の承認を要するものとする。
- 4 検討会は、必要に応じて、専門家や有識者等の参加を求めることができる。

（第三者性）

第4条 委員は、検討会の目的に照らし、公正中立な立場から特定の行政機関及び特定の利害関係者等の利害を代表してはならない。

（委員の任期）

第5条 委員の任期は、検討会の検討事項が終了するまでとする。

（委員長）

第6条 委員長が、職務を遂行できない場合は、予め委員長が指名する委員がその職務を代理する。

（検討会の運営）

第7条 検討会は、委員長の発議に基づいて開催する。

- 2 検討会は、会の運営にあたり必要な資料等を事務局に求めることができる。

（守秘義務）

第8条 委員は、公開することが望ましくない個人情報等について漏洩してはならない。

（事務局）

第9条 検討会を運営するため、事務局を「国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所 道路管理第二課」に設置する。

(その他)

第 10 条 本規約に定めるもののほか必要な事項は、その都度検討会において審議して定めるものとする。また、本規約の改正等は、本検討会の審議を経て行うことができるものとする。

附 則 この規約は、平成24年 月 日から施行する。

「委員名簿」(案)

委員	北川 義男	一般財団法人 日本造園修景協会 宮崎支部長
委員	出口 近士	宮崎大学 工学教育研究部 国際教育センター 教授
委員	吉田 晋弥	一般財団法人 みやざき公園協会 理事長
委員	日高 晃	橘通フラワーロード推進協議会 代表
委員	西山 昌彦	宮崎日日新聞社 論説委員
委員	上村 哲司	宮崎交通株式会社 取締役
委員	永田 宣行	宮崎県 県土整備部 道路保全課長
委員	栗原 正夫	国土交通省 国土技術政策総合研究所 環境研究部 緑化生態研究室長
委員	大脇 鉄也	国土交通省 宮崎河川国道事務所長
オブザーバー	外山 俊文	宮崎市 都市整備部 景観課長
事務局	国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所	道路管理第二課

国道10号・220号の植栽と景観に関する検討会

平成24年6月

九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

1. ワシントンニアパームの概要

ワシントニアパームの概要

ワシントニアパームは、「こどものくに」などの観光施設や宮崎空港、市役所・県庁などにも植栽され、宮崎県の観光シンボルとして欠かせない樹木といわれている。



《こどものくに》



《宮崎空港》

ワシントニアパームの概要

道路の修景としても広く用いられており、一ツ葉有料道路、南宮崎駅前などの他、直轄国道でも国道220号橘通りや宮崎南バイパスなどに植樹されている。



《一ツ葉有料道路》



《国道220号橘通り》

ワシントンニアパームとは



※こどもの国での植栽例

学名 : *Washingtonia filifera*

英名 : Washington palm

California Fan Palm

Petticoat Palm

和名 : ワシントンヤシ

別名 : オキナヤシ

ワシントンニアパーム

原産地 : 北米西部の乾燥地域

生育気候 : 温帯、亜熱帯気候

日本での生育可能地域 : 本州南岸以南

開花時期 : 3 ~ 4 月

果実成熟期 : 10 ~ 11 月

ワシントニアパームとは

特徴：

- ・高温多湿な熱帯では生育せず、温帯、亜熱帯気候を好む。
- ・単幹で樹高は12～18メートルになる。
- ・葉は円形または扇形で直径1～1.5m、掌状に中裂し、裂片はふちに多数の白色の糸を垂れる。
- ・肉穂花序は葉より長く、下垂し、多数の小花をつける。
- ・葉柄は下半分に刺がある。
- ・雌雄同株
- ・果実は直径7ミリくらいの楕円形で黒く熟す。
- ・乾燥に強く、痩せ地にも耐え、潮風や大気汚染にも強い。
- ・耐寒性が強く、成木で露地植えなら-6℃くらいまで耐える。



※葉形



※果実

ワシントンニアパームとは

補足：

ワシントンヤシは幹が極端に太く（幹周りが160cm以上）、ワシントンヤシモドキは幹が細い（幹周りが90cm内外）のが特徴で、容姿は見分けが付かないほど似ている。

日本で最近普及しているのは、この両方を交配させたヤシで幹は普通の太さ（幹周りが120cm内外）で耐寒性が強くなったワシントンヤシモドキで、宮崎ではワシントンニアパームとして公園樹や庭園樹、街路樹など広く植栽されている。

ヤシの独特の樹型はいかにも熱帯的な印象があり、本州南岸以南では、よく街路樹として用いられ、特に観光地では南国ムードを高めるために頻繁に使用される。

属の学名 *Washingtonia* はアメリカ合衆国の初代大統領ワシントンを記念してつけられた。

2. ワシントンニアパームの植栽

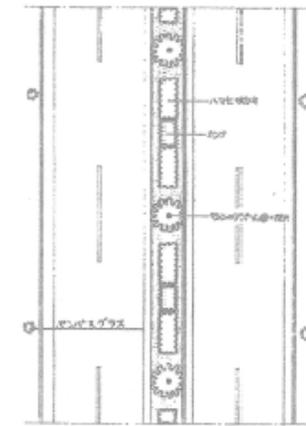
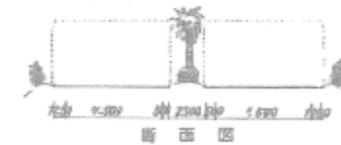
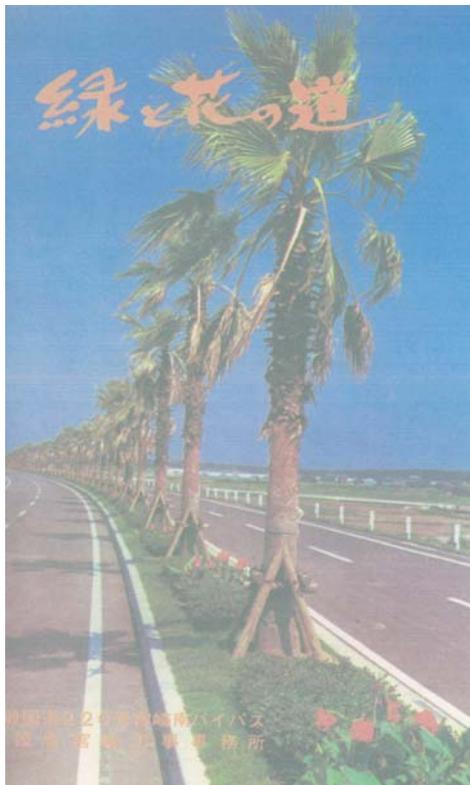
ワシントニアパームの植栽範囲

道路の中央分離帯に植栽されているワシントニアパームは849本。
国と県との協働により維持管理を行っている。



宮崎南バイパス建設当時の植栽計画

- ・ 宮崎南バイパスは、宮崎市中村町から同市熊野に至る延長約10kmの6車線バイパスであり、昭和54年に開通。
- ・ 日南海岸沿いの観光ルートにつながる路線であり、バイパスの全線公園化を目指し、宮崎県と協働で植栽計画がたてられた。
- ・ 完成後は、維持管理協定により、宮崎県で管理を行っている。



宮崎南バイパス建設当時の植栽計画

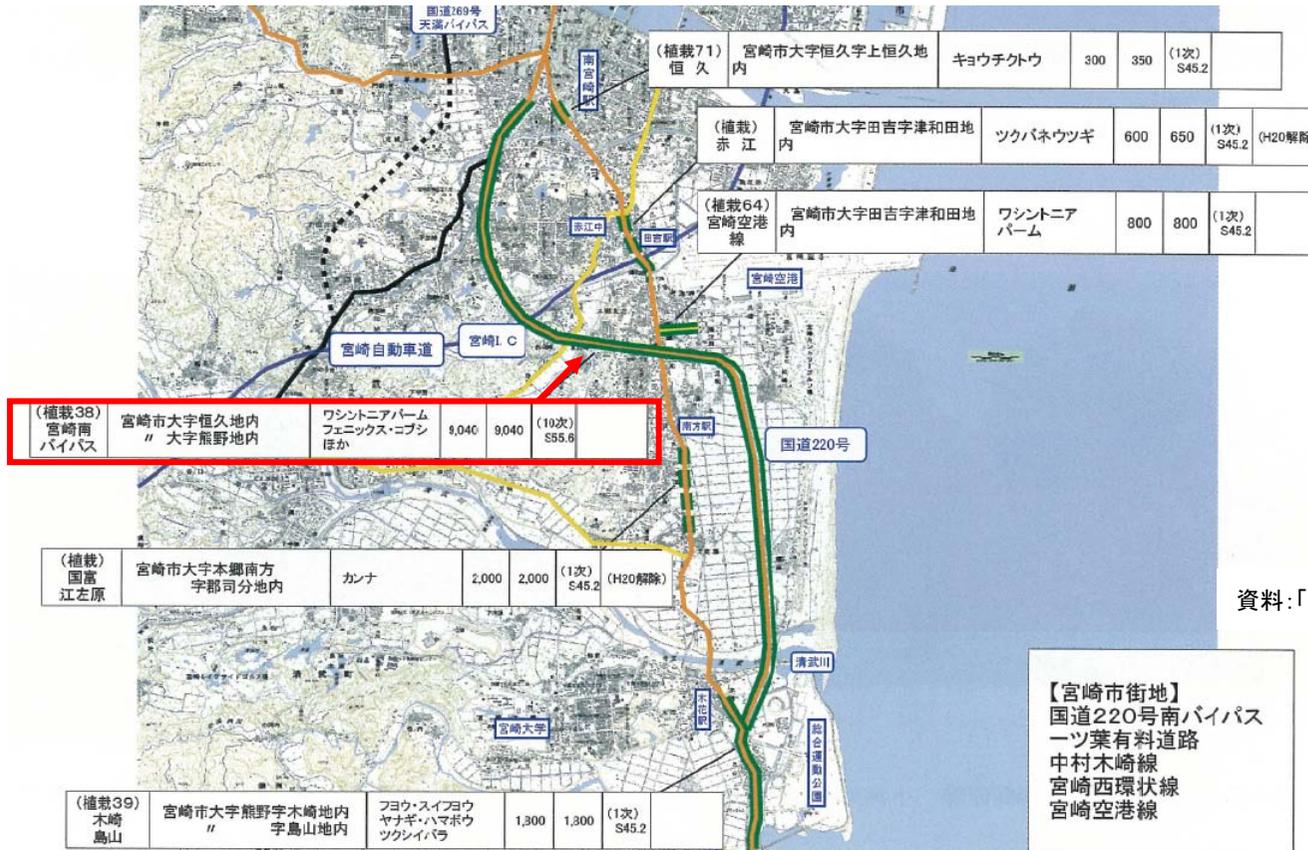
宮崎南バイパスの植栽は、修景、交通安全、環境保全を満足させることを基本とし、宮崎の地域特性、宮崎市と日南海岸国定公園へのアクセスとなることから「亜熱帯性植物」を基本樹種とした。

建設当初の植栽地ごとの基本樹種の考え方は次のとおり。

	中央分離帯	歩道植栽帯	路肩・のり面等植栽地
高 木	ワシントン、フェニックス等のヤシ類でバイパス全線の統一感を出す	沿道が住宅地の場合は環境を考慮し、クロガネモチを、その他は落葉のコブシの花木とする	
中 木	バイパス終点の一部に運動公園と統一のため、ソテツを植栽する	沿道が住宅地の場合は環境を考慮し、ベニカナメモチ、サザンカの常緑樹を垣根式に植栽する	修景を目的とし、サンゴシドウ、キョウチクトウの花木を植栽する
低 木	遮光等の交通安全から常緑樹のハマヒサカキ、マメツゲ等とし、彩りとしてカンナを植栽する。広幅員の場合は、ツツジ、ハマユウを植栽する	ツツビ、アベリア、サツキ等の花木を植栽する	沿修景を目的とし、コバノセンナ、フヨウを植栽する

沿道修景美化条例

宮崎南バイパスはほぼ全線にわたり、ワシントニアパームの植栽が「宮崎県沿道修景美化条例」における沿道修景植栽地区に指定されている。



資料:「沿道修景美化」(宮崎県)

ワシントンアパームの成長①

昭和54年の宮崎南バイパスの供用から32年を経過し、当初4～5m程度であった樹高も15m近くまで成長。



【昭和54年9月】

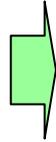


【平成24年5月】

ワシントンアパームの成長②



【昭和54年9月】



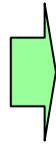
【平成24年5月】

※ 宮崎南バイパス(月見ヶ丘付近)

ワシントンアパームの成長③



【昭和54年9月】



【平成24年5月】

※ 国道220号中村交差点より起点側を望む

3. ワシントンニアパームの植栽管理

国道220号線 ワシントンニアパーム枯損枝除去作業状況



高所作業車による作業状況



17
シーター（枯枝が道路に飛ばないようにこの中を通して落とす）



工事名 平成22年度 県単維持 第01-02-30号
国道220号 道路権裁維持管理委託
工 種 パーム葉落下防止工 測点 10.3 K地点
洋木枯損枝除去工
作業中
財宮崎県公園協会



高所作業車 ボックス

全体作業風景

枯損枝除去作業手順



① ノコで葉柄除去



② 人力で葉柄のはぎ取り



③ はぎ取り完成



④ 落下防止を葉柄に取り付け



落下防止ベルト設置

作業完成



管理の状況

植栽の剪定作業は、中央帯側の車線を交通規制しながら、高所作業車で枯れ枝等の除去作業を行っている。



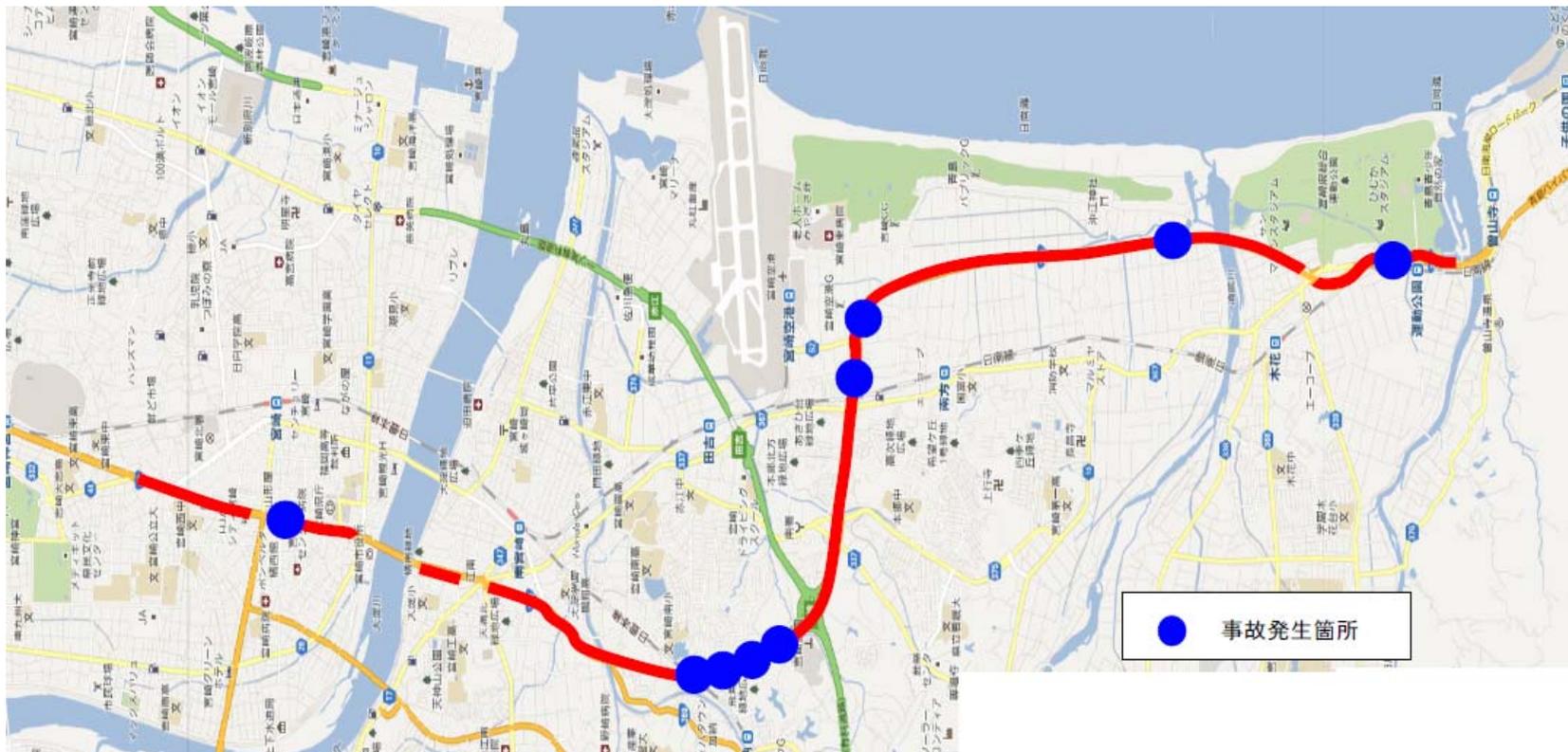
管理の状況

台風や強風時にはパームの枯れ枝が落下し、通行車両等に損傷を与える事故が発生。



事故の発生状況

ワシントンアパームによる事故は、確認できているものだけで、過去10年間で9件発生。
事故内容は、全て枯れ枝が車両へ落下して、車両に損傷を与えたもの。

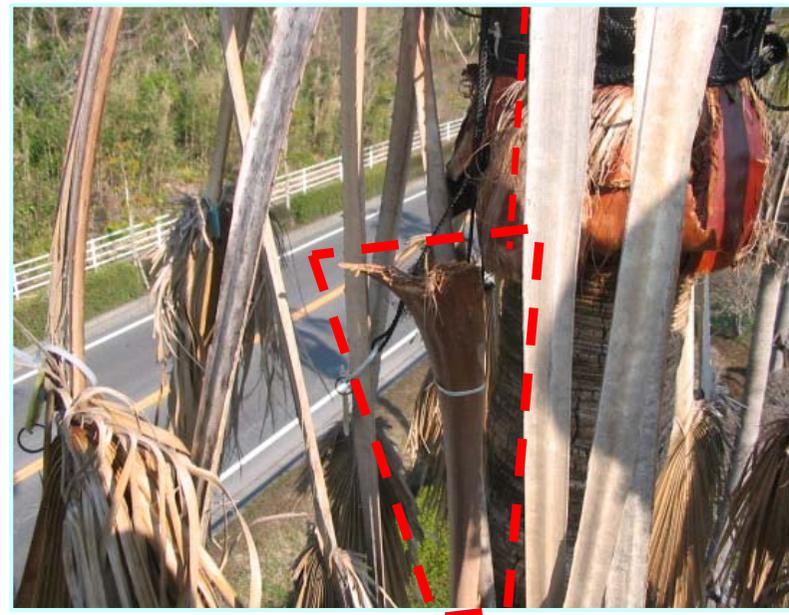


植栽管理の工夫

現在、パームの枯れ枝が自然に落ちるのを防ぐため、剪定作業時に枯れ枝落下防止ベルトを設置している。



【ベルト設置状況】



植栽管理についての課題

①剪定作業の限界

国道10号・220号の中央分離帯に植栽されているワシントンニアパームは、現在、14,5m～20m近く成長しており、このまま成長を続けた場合には高所作業車を用いても剪定作業が困難になることが予想される。

②高い維持管理コスト

台風や強風時にはパームの枯れ枝が落下し、通行車両等に損傷を与える事故が発生するため、高所作業車を用いた頻繁な剪定作業が必要であり、通常の樹木と比較して管理コストが高い。

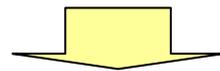
4. 本検討会の進め方

本検討会の検討内容

ワシントニアパームのある風景は歴史があり、親しまれてきた景観である。一方で、ワシントニアパームが起因する事故が発生したり、高くなった樹高のため管理が困難な状況になってきているといった課題を抱えている。

このため、道路利用者や一般市民の方の意見を踏まえながら、以下の観点に留意しつつ問題解決の検討を行う。

- ① 観光立県宮崎らしい道路景観の保持
- ② 道路利用者の安全・安心の確保
- ③ 植栽管理コストの低減

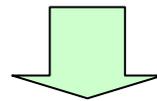


国道10号・220号の中央分離帯にあるワシントニアパームの整備のあり方を検討する。

検討会のスケジュール

第1回検討会開催（H24.6）

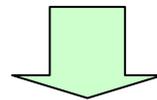
- ・検討方針の整理



意識アンケート調査
（観光客、道路利用者 等）

第2回検討会開催（H24.10予定）

- ・現地踏査
- ・植栽整備内容の検討



第3回検討会開催（H25.2予定）

- ・植栽整備方針の決定

アンケート調査(案)

1. 調査項目

①道路の景観形成にワシントニアパームが必要か？

- ・パームが好きか、嫌いか
- ・どの道路(区間)にパームが必要と思うか

②管理瑕疵についてどう思うか？

- ・落下した枯れ枝で被害にあったことがあるか
- ・パームのためなら被害を容認できるか

③今後のパームはどうあるべきか？

- ・パームを残したいか、残さなくても良いか
- ・残さなくても良い場合、パームに代わる植栽が必要か否か
- ・パームに代わる植栽はどういうものが良いか

アンケート調査(案)

2. アンケート対象者候補
 - ①観光客(空港・JR利用者 等)
 - ②道路利用者
 - ③沿道住民(町内会、商店街)
 - ④その他

3. ヒアリング候補
 - ①観光協会(宮崎県、宮崎市)
 - ②JAF
 - ③バス事業者、タクシー協会
 - ④商工会
 - ⑤弁護士協会
 - ⑥警察